

豚熱ワクチン接種後に発生した離乳豚の神経症状：岡

山県津山家保 片岡まどか、大津寄由華

令和5年8月15日、登録飼養衛生管理者による豚熱ワクチン接種を始めた管内農場で、接種後5日目の離乳豚（34～45日齢）がふらつきや遊泳運動などの神経症状を発症。死亡豚の増加はなかったが、移動自粛を要請し豚熱検査を実施。3頭中1頭の扁桃が豚熱遺伝子陽性となるも、他の豚熱検査結果から牛豚等疾病小委員会によりワクチン株由来と判断されたため、通常有病性鑑定に移行。ウイルス検査では、3頭中2頭の脳及び3頭の延髄から豚テシオウイルス特異遺伝子を、1頭の脳及び2頭の延髄から豚エンテロウイルスBの特異遺伝子を検出。病理組織学的検査では、非化膿性脳脊髄炎及びリンパ球性化膿性髄膜炎等を認めたため、豚テシオウイルス性脳脊髄炎及び細菌性髄膜炎の疑いと診断。病性鑑定個体から *Streptococcus suis* の分離はできなかったが、その後も離乳豚舎へ移動後の豚群で続発、関節炎も認めたことから本菌の関与を疑い、豚舎移動後に抗生物質を飼料添加することで発症数は減少。